

美術館句会へ俳人大高翔さんをお迎えして

令和三年十一月二十八日(日) 十時～十二時 白山市立松任中川一政記念館

松任ふるさと館

大高翔 特選三句

花びらに黒い輪郭冬薔薇

文葉

一政の赤りんりんと冬薔薇

一穂

薔薇を挿すマジヨリカ壺の不等形

稔

ごくげつ

極月や額をはみでる駒ヶ岳

蒼石

寒昂絵筆は過去を削ぎ落す

かなな

ポーズとる木陰の姉妹青林檎

春美

冬の朝画家のタッチと息合はず

牛蒡

始まりは油絵具や百合開く

ヒロ子

攻めぎ合い叫ぶ墨痕ほっこんコート脱ぐ

喜代子

限界に膨らむ鼻や息白し

佐由子

あんころの文字有る手記や冬うらら

ゆき子

福浦の漁師逞し夏の雲

茂樹

山揺れてひびきわたるや白椿

海洲

小春日に早く仕上げて少年椽

富佐恵

マジヨリカの壺に会へたり冬館

寛

冬晴の母の故郷や筆の跡

敬子

マジヨリカの壺の呂色ろいろに冬うらら

朗

マジヨリカの壺に真紅の冬薔薇

美枝子

冬の日の山描かれて脈打てり

翔